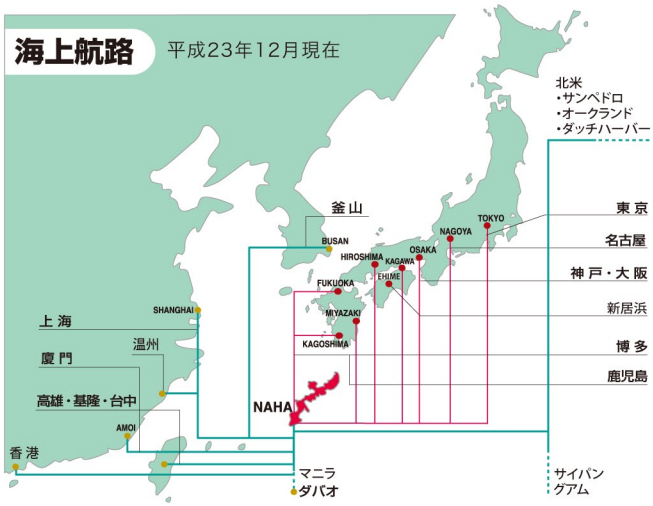
沖縄の地理的優位性

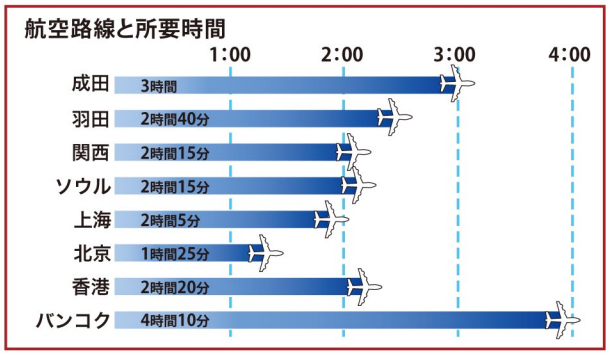
国際流通港湾機能の充実を目指す那覇港

那覇港は、東京、名古屋、大阪および博多など、日本の主要都市を中心とした30の国内航路網、釜山、上海、香港および台湾など、アジアの主要港や、グアム、ダバオなど南太平洋や、北米と那覇を結ぶ5つの国外航路網と地理的優位性を活かし、国際的物流拠点の集積を図ります。
また、国際コンテナターミナルにおいては、平成18年1月より日本初となる民間企業（那覇国際コンテナターミナル株式会社（ＮＩＣＴＩ））による運営が開始されております。
さらに、コンテナターミナル直背後地（7.8ha）において、国際物流関連産業の集積を促進し、国際コンテナターミナルとの連携を高めていくこととしています。
平成23年8月には、那覇港と那覇空港を結ぶ那覇うみそらトンネルが開通したことにより、現在、那覇空港で行われている国際航空物流ハブ事業と連携した、Sea and Air、Sea or Air輸送の可能性も広がります。



ANA「国際貨物ハブ事業」

ANAは、沖縄県が本土とアジア各都市から飛行機で4時間圏内の距離にあることに着目し、那覇空港を中継基地としてスピーディーな航空貨物輸送を実施しております。
新たな国際航空貨物ネットワークの構築は、輸出の拡大、新たな産業の集積、雇用の拡大など大きな経済効果が期待され、沖縄県としてもANAの国際物流事業を支援していきます。



○国際貨物ハブの実施

深夜に、専用貨物機で国内やアジア各都市で集荷した貨物を那覇に運び、効率よく目的地別に積み替えて翌早朝便で、各地へ配送します。年間の貨物取扱量は、40万トンを目指しています。

○2009年10月スタート

国内地点　成田、羽田、関西
海外地点　ソウル、上海、台北、香港、バンコク

○アジアへ向けて広がる可能性

日本各地の農水産品・県内産品の輸出拡大
物流関連産業の集積
アジアの「ストックポイント」

深夜、アジア各地から那覇空港に到着した『ANA貨物専用機』

※航空輸送に適する物資（完成品・部品・食料・医薬品）の保管基地